

令和2年度「維孝館学園」クリエイト会議 第2回全体会議まとめ

1. 日 時 令和3年3月25日(木) 18:00～20:30
2. 場 所 宇治田原町総合文化センター 研修室1
3. 内容等

◎委員長あいさつ

これからのこの会議の進め方やそれぞれの学校の状況、現在の運営協議会等の仕組みがどのような状況にあり、課題がどの辺にあるのかというようなことを中心に協議をすすめ、これからのありようを探っていきたい。

◎協議事項

(1) 本年度のまとめと次年度の方向性について

〈事務局〉

コロナ禍の影響で予定どおり取組が進まなかった。その中で11月の全体会、本会を入れて2回、地域・広報部会を1回、役員会を2回開催して、前回の全体会では、初田委員長より、子どもたちの状況と課題について講演をいただいた。また、地域・広報部会の取組の中で、町の広報紙に順番に記事を掲載し、クリエイト会議の取組状況や委員の思いを住民の皆さんに伝える機会が増えた。次年度の方向性については、次年度も会議、視察研修、講演会を予定している。また部会については、その都度必要な部会において協議をしていく。また、この事業と並行して、施設調査研究事業に取り組みでいく。コロナ禍で先行き不透明な状況から、今後の税収見込みであったり、経済状況を見通す中で、施設一体型の方向性は変わらずに、新しい生活様式等に考慮した安全な施設規模や財政シミュレーション、そして開校時期などを再検討する。

(2) 学校支援体制について

〈田原小学校の状況〉

- ・素直な明るい元気な子が多い。人権教育に力を入れている。昨年度から脱帽して会釈をして挨拶する取組を進めている。
- ・与えられた課題は取り組んで頑張るが、自主学習的な部分の習慣は不十分。
- ・元気で外で遊ぶ子も多い。しかし、就寝時間が遅い特徴がある、これはオンラインゲームかもしれない。
- ・進んで深く考える子、粘り強く取り組む子、人を大切にする子、たくましく元気な子

という4つの目指す子ども像を立て、今年度は学校だより等でも地域の皆さん、保護者にも知らせたり、全校朝会で子どもたちにそれを意識させたり、先生もそれに一緒になって子どもたちに力を発揮させるように指導している。

- ・特に今年の6年生、登校では1年生を気遣ってゆっくり歩いて、一定の列をしっかりとつくって登校もできていた。
- ・運動会は、児童会本部や高学年のリーダーとしての行動があった。
- ・安全登校週間における登校指導、見守り安全パトロール隊、見守り隊の方、茶摘み、お茶の淹れ方教室、ころ柿作り、昔遊び、福祉教育では手話、点字、車椅子体験等、読書ボランティア、読み聞かせ隊、田原祭についての講話、茶道クラブ、まなび茶ろん、子ども110番の家等々、地域の方から多くの支援をいただいている。

○委員 コミュニティースクール構想については如何お考えか。

- コミュニティースクールの学校運営協議会が設置されて、その中でいろんな協議を共にしていく中で進めていくような、そういう仕組み、システムをつくっていけばと思う。社会教育委員会でも議論が始まりつつある。

〈宇治田原小学校の状況〉

- ・田原小学校と重なる部分が非常にたくさんあるので、違う部分を言っていきたい。
- ・学力面の「知」、道徳面の「徳」、体力・健康面の「体」、それに付け加えて自分の「自」ということと、「和」、この5つ、知・徳・体・自・和というものを子どもたちにも先生にもいろんな機会の中で話をしている。
- ・自分の自ということで、1年生・2年生については、まず自分のできることは自分でやるということ。3年生・4年生については、自分よりも周りの人を見て、どんなことをしているかとか、そういうことを見て、自分を見つめていくということ。5・6年生は、それに加えて自分の将来についても考えながら、自己有用感も含めてやっていく、そういう一連の流れをもってやっていこうという話をする機会を多くしている。
- ・素直で、元気よく外で遊ぶ子、また中で本を読んだりする子、それぞれいるが、児童会等の取組と人権の取組と併せて、一人一人が活躍できる、そういう学校にしていこうということを今年はテーマにやってきた。それに合わせて、一人一人の子どもを大切にしていって、一人一人の子どもについてきちんと見ていくということをしていこうということで、今年度は特に取り組んできた。

- ・小中一貫でつなげていけるということで、中学校の行動指針にもなっている挨拶、掃除、時間を守るという取り組みを進めてきた。
- ・勉強面については、落ち着いて授業に臨んでいたり、活発な意見を出したりできている。
- ・通学はいろんな機関を使って来ている。奥山田や湯屋谷はバスでだが湯屋谷は来年度4月から、登校については徒歩で、帰りはバスでというふうな方向になっている。禅定寺については、下校については水曜日を除いてタクシーを使って帰っているという状況。見守り隊の方であったり、安全指導員の方にお世話になってやっているという状況。今、危険とかを鑑みて、3人以上で下校を促しているが、それが厳しくなってくるところの通学班が出てきている。
- ・先ほど言ってもらった支援については、ほとんど同じ。やっていただいていることは小小連携部会でいろいろ共通してやっているの、先ほど田原小で言ってもらったような支援については、宇治田原小でも手厚くやっていただいている。
- ・今後さらに支援をいただきたい点は多々あり、小中一貫で言えば、今後、PTAであるとか、中学校、これから一緒になった場合の制服関係であるとか、そういう具体的なところとかを話をしてもらおうとか、そういうふうなことをしてもらえるような支援があればさらにいいと思う。
- ・先ほどもあったが、そういう交通整理、コーディネーター的な方がおられてつないでいってもらおうとか、そういうことがやっぱり今後、非常に大切になるのではないかなと思う。

〈維孝館中学校の状況〉

- ・学力については子どもたちにもう一段高い力を本当につけられたかということについては課題が残るかと思っている。
- ・自己有用感に関する調査においては、この春卒業した3年生の入学時からの状況では例えば入学時、60%を超える子たちが肯定的な意見を持つ。これは大体、小学校を卒業するときに、すごく達成感とかそういうものを持ちながら入ってくるので、比較的いつでもこれは高いが、年3回やっているが、途中取ると、大体1学期の6月末、もしくは7月の頭を取るデータで、まずはぐんと下がる。学習内容が難しくなるとか、いろんなことが原因で、また部活動などが結構やっぱりしんどいとかというようなところも含めて、この辺が落ちてくる。2年生のところも、この学年は2年生3月、あ

まりまだ上がらなかったが、学年が上がるにしたがって、少しずつ上がるというのが大体の傾向で、3年生の最後というときには、入学時よりも高い状況で肯定的な意見が出てくるというような状況。これは、この学年がよかったというわけではなくて、大体いつもこういう傾向になる。

- ・自己効力感という調査においては、非常に単純だが、自分は、努力すれば、たいいていのはできるよくなると思うという、こういう質問項目。1年生7月が一番最初の質問項目になるが、比較的1年生はまだ少し高い。でも、やっぱりいろいろやっていくと、できないことが多くなるから、必然的に落ちていくが、いろいろ進路実現等に向かって努力をしていって、特に3月、これは全員入試が終わって、進路先とかが決まった状態ではないが、このときの調査は。3月の頭にとったが、今年では中期選抜がまだ終わっていない、そのときにはあと4割ぐらいの子たちが中期選抜を受けるという状態で調査したけれども、それでも一定、自分の中でそういう努力に対する評価をしてくれているのか、80%を超える子たちが肯定的な意見になっている。このあたりで中学校としては、今やっていることの方向性は間違っていないのかなという感覚を持っている。
- ・100%にならないというところが、やはり当然ここが課題。その残り20%弱の子たちにはどういうことが手だてとしてできたのか、もしくは学校全体として、先ほどから一応中学校でこれは取っているが、それこそ小中一貫ということになった場合、特に義務教育学校ということになった場合には、6・3という枠を外して考えたときに、こういうところに対してどんな手だてが打てるのかということは考えていく中身になるかと思う。
- ・そういうようなことに関する取組ということになるが、今年については本当に外から支援をいただく場面というのは、例年に比べると当然少なかった。ただし、2学期以降、2年生のふれあい教室ということで、抹茶・煎茶の作法等を学んで、講師を町内の方に協力いただいて取り組んだ。
- ・3年生が1班4人のグループで、宇治田原を元気にする会社をつくる、そういうものを自分たちの今までの学びの中から、地域について、宇治田原について学んできたことのいろんなものを意見を出したり、宇治田原の強み、弱みを分析して、その中から、宇治田原を元気にする会社、どんな会社をつくったら、宇治田原を元気にできるんだろうということ、会社を考える。それをつくった会社について交流して、また全体で発表するというような形を取ったりしている。今回非常によかったことは、それを

中学校のときに体験してくれている大学生などが、今度は自分がファシリテーター役、コーディネーター役のところに入ってきてくれた。去年ぐらいから入ってきているが、その数が増えた。こういう縦の回転ができるということが、結果的には宇治田原の子たちを成長させていくことになるだろう。

- ・義務教育学校、小中一貫の中で、例えば高学年の子たち、中学でいうところの2年・3年生に当たるような子たちが、小学校の低学年とか中学年の子たちを教えるというのは、これも縦のつながりだと思うが、そういう縦のつながりをもう一段広げた縦のつながりができるようになれば、より一層宇治田原としての教育が充実していくのではないかと今回強く感じた。
- ・小中一貫、最初の連携のスタートは、平成16年度、宇治田原町小中学習推進委員会ということで、学力の課題等を小・中で合同で考えていくというところからスタートした。
- ・平成22年度に宇治田原町小中連携・一貫教育推進委員会ということで、教員の組織プラス教育委員会のほうも入って3つの部会等をつくって動き出した。
- ・23年度には、当時の3人の校長が中心になって、小中一貫教育を進めるビジョンを2年ごとの3段階でのビジョンをつくって、それに基づいて以降取り組む形をしている。
- ・授業等の日常的な取組の中で非常に効果があると感じているのは、最初は専科教育加配ということで、小学校の5・6年生に中学校の音楽の教員が授業をしに行くというところからスタートしているが、そういうものを今、積み重ねていって、今年度では、小学校5・6年生の音楽と、小学校6年生の図工指導が入っている。こういう中で、子どもたちの直接的な指導、それらが今度、自分たちが小学校のときに教えてもらっていた先生が中学校でも継続で、音楽であったり、美術とかを教えてくれている。教師の立場からすると、4年間なり5年間も継続して見ているという、そういう教育になっているというところ。
- ・子どもたちの課題というよりは、結果としてそうなってしまったのかなと思うが、宇治田原の子というのは、本当にたくさんの大人が関わってくれているので、残念ながら、ちょっと待ちの状況がやっぱり強い。何かしてもらえるとこの感じ。自分から動く、自分たちで何とかというようなところがちょっと弱いのかなというところを感じる。

○委員 この維孝館学園、小・中学校の資料は、せっかく学校がこの会議のために準備

してくださった資料なので、ここで合意すれば、ぜひこれを保護者、それからそれぞれ教育委員会から、全町で見られるような体制で発信してほしいということをここで合意できれば、一つ、大きな一歩になると思うがどうでしょうか。皆さんとしても、これを保護者及びいろんな方に見ていただける体制が適切だと思われませんか。もしそうであれば、ぜひこれを、最初はこの形のまんまじゃなくてもいいと思うし、いろんな調整もあるかと思うが、基本的にはこういう内容を発信して、まとめていただくというのが、クリエイト会議、2年度の終わりにも大事な一つの論点かと思うので、学園長、どうでしょうか。

- ご活用いただければと思っている。

(3) その他

○委員 この1年の一つの成果として、ここでできれば、方向性を見ておきたいのは、学校運営協議会という形が、我が町の維孝館学園の運営にとってプラスなのかどうなのかということの印象が、やっぱり一つかじを切っておくと、すごくこの先が漠然としているものが見えてくると思う。それに向けた地域づくりであったりとか、それから保護者の育成であったりとか、今の就学前の子どもたち、受益者の保護者の育成だとかも含めて、これだけ具体的にぼんやりと運営協議会がいいみたいだ、ぜひしてほしいという声が上がっている中で、ここで一つの方向性として、クリエイト会議の中でそういうことが、方向のかじを切るのに、ぜひ動くべきだということ決めておくというのが、すごく大きな成果だと、地域・広報部会としては思っていて、これだけ意見が出た中で、皆さん、比較的それは前向きに検討しましょうという意見が多かったので、ここで確認するというのは重要なことじゃないかと思う。

○初田委員長

- ・宇治田原町では、義務教育学校という形で新しい維孝館学園をつくっていくことを昨年度末に確認したところである。今年度の最後のクリエイト会議においては、本会議が、いわゆる新校の学校運営協議会につながる仕組みであるとの確認の下、宇治田原町の新しい学校の姿を模索しながら、さまざまに提案をしていく、そういう役割を担った委員会であるということをここで確認をさせていただく。
- ・今日、小学校と中学校から報告をいただいた。そして、この学校の実態を基にして、これからどのような形で学校に対する支援が行えるのかについてのご意見をいただきながら話をすすめてきた。今日は運営協議会につなげていくために前進となる話合い

の場であったと思う。これまで、各小学校、中学校を、それぞれの地域単位で支えて
いただいていたが、これからは広く宇治田原町として、どのように小・中をバックア
ップしていくのかという広い視野での意見交換を進めていくということを確認してお
きたい。さらに、中学校のほうから説明があった維孝館学園についての地域へのアピ
ールについては、もう一度その内容をご精査し確認いただいた上で情報発信してい
ただければありがたい。